

アダムのダイアリー 18/03/09

やあ、みんな。ダイアリーを書くのがこんなに久しぶりだなんて信じられないけど、僕はとても素晴らしい、けれど張りつめた時間を過ごしてたんだ。小さな赤ちゃんがいる人なら誰でも知っていると思うけど、子供のこと以外に費やせる時間ってほとんど無いよね。本当に人生が永遠に、素晴らしく変わってしまったんだ。

前にダイアリーを書いたのは確か去年の4月だったよね。あれ以来いくつかの出来事があって、この数カ月はとても忙しかった。前のダイアリーを書いた直後の去年の夏、ロイヤル・フェスティバル・ホールの「オズの魔法使い」への出演と、「回転木馬」の小規模地方公演とロンドン公演の振り付けを打診された。ロンドンの演劇シーンをよく知る人ならみんなご存じのとおり、「回転木馬」は今サヴォイ・シアターで上演されていて大盛況なんだ。でもそれについてはこのすぐ後で。

ロイヤル・フェスティバル・ホールの「オズの魔法使い」への出演を依頼されたのは去年の夏。ほとんどのみんなが知っているように、僕は何回かフェスティバル・ホールの舞台に立ったことがある。最後の公演は、確か2003年の「オン・ユア・トーズ」。あの夏、目の肥えた満員の観客の前で公演できてとても楽しかったから、またその舞台に立てると思うとワクワクした。あの劇場は、ある種のショーの上演にはぴったりだからね。それに偶然とはいえ、僕がこの国で初めてプロとしての仕事をしたのがロイヤル・フェスティバル・ホールなんだ。ロンドン・フェスティバル・バレエ（現在のイングリッシュ・ナショナル・バレエ）の「くるみ割り人形」の公演。当時僕は11歳か12歳くらいかな。だからフェスティバル・ホールにはとてもいい思い出があるんだ。それにもう少し小さい頃、生まれて初めてバレエを見たのもフェスティバル・ホールだったような気がする。だから本当にいい思い出があるんだ、あの場所には。それはともかく、「オズの魔法使い」は自分が出演するなんて考えたこともない作品だった。でもブリキ男の役を打診された時、面白そうだし、やってみてもいいかなと思ったんだ。オペラ・ハウスで上演された子供とファミリー向けの公演「ウィンド・イン・ザ・ウィロー」を除いて、僕はこういうファミリー向けのショーに出演したことがなかったから。それにまたミュージカルができるチャンスでもあるし、素晴らしい人達と一緒に仕事もできるしね。ライオン役はゲイリー・ウィルモット、かかし役はヒルトン・マクリー、ドロシー役はシャン・ブルックという若い女優、そして魔法使いを演じるのは伝説的俳優ロイ・ハッドという面々で、愉快的ショーができるチャンス大だったんだ。それにサラのそばにいるためでもあったし。子供が生まれる時は、もちろん彼女のそばにいたかったからね。だから良かったよ、本当に。公演はまあまあ上手かった。ある面を、本当のところ舞台の見た目なんだけど、問題視する人もいたけど、トトを演じた名犬が批評家に大好評だったしね。カンパニーのみんなと知り合いになれて嬉しかった。特にゲイリー、ヒルトン、シャンとは、公演中小さなユニットになって楽しく過ごしたし、魔法使いのシーンなんか、かなり面白かったんだよ！

とにかく、「オズの魔法使い」の公演もほぼ半ばになって、僕は「回転木馬」の振り付けを始めた。「回転木馬」は最高のミュージカルだよ。ロジャーズ & ハマースタインの素晴らしい音楽、優れたダンス、俳優が演じる素晴らしいシーン、そしてただもう美しい曲と歌。だから振り付けを依頼された時は感激だったし、演出のリンジー・ポズ

ナーとの仕事はもう最高だった。振付師と演出家の関係は、時として難しいこともあるんだよ。ビジョンを共有しながら互いの気性の許す限り仲良くし、互いに耳を傾ける能力、または耳を傾けようとする能力と、意見を言い合う能力の間にバランスを取らなければならない場合が多いから。けれどリンジーとは、本当に、本当に素晴らしい体験だった。一緒にショーを作り上げて、一緒にユニットとして仕事をして、本当に楽しかった。だから彼とはぜひもう一度仕事をしたいと思ってる。この「回転木馬」を僕は非常に誇りに思っているんだ。この中のいくつかの踊りは、振付師としての僕のベストだと思う。繰り返しになるけど、ものすごくラッキーだったよ。キャストも素晴らしかった。

というわけで、日中は「回転木馬」のリハーサル、夜は「オズの魔法使い」の公演。そんな真っ只中で、麗しの我が娘、ナオミが誕生したんだ！ 8月25日。なんてきれいな子なんだろう。この子の親になれて、僕らはなんて幸運なんだろう。僕はひたすら父親であることを楽しんでいるよ。分かるでしょ、赤ちゃんのせいで眠れなかったり、昼も夜も働き通しでクタクタになることもあるけれど、この子の眼をじっと見ると、そんなこと何もかも吹き飛んで、天にも昇る心地になってしまう。素晴らしい子なんだ！

他には何を話そうかな？ サラは数日間入院してたんだ。生まれた時のナオミの体重は6ポンド8オンス、生まれた時間は... あれっ、今思い出せない！ 9時10分前だったと思う。さほど困難なお産ではなかったし、そして、うん、気持ちが込み上げてきて圧倒されそうだった。こんな奇跡が、今まさに起きつつある部屋にいるってことがね。ああ、つまり、神経が張りつめていたんだ。サラの陣痛が始まって、僕らは約12時間病院の部屋にいた。陣痛の間って、緊張する時間だよ。でもサラは素晴らしかった。上手に乗り切ったサラを僕は夫として誇らしく思うし、おしまいには父親になっていたんだから！ すごいよ。

ナオミが生まれた月曜日は「オズの魔法使い」がオフの日で公休日だったから、僕はもう1日火曜日も休みをもらい、水曜日に公演に戻った。「回転木馬」のリハーサルには木曜日に戻ったから、数日休みをもらってまた仕事に戻ったわけで、っておかしくなりそうだよ。最後の数週間、僕は電話にかじりついて「生まれそうだよ！」の連絡を待っていた。今こうして子供が生まれてみると、物事全てが今までとは違うふうに進んでいくんだけど、それも素晴らしいと思う。「回転木馬」も上手くいきそうだし、「オズの魔法使い」の公演も順調だし、というわけで、万事めでたしだよ。

その後「回転木馬」はリハーサルを終え、ブロムリーに移動して数週間の公演をした。ところがどういうわけか、これが厳しい試練だった。けれどリンジーと僕、いやリンジーと僕とキャストの面々は、全員一致団結して乗り越えたよ。

「回転木馬」はそれから数週間のツアーに出たので、次に僕は自分の初演出作品となるショーに取り掛かった。ポール・ケリソンから話があったのは確か昨年だったと思う。ポールはレスターのカーブ・シアターの芸術監督で、過去に何度か一緒に仕事をしたことがあるし（「オン・ユア・トーズ」、「雨に唄えば」）、いい友達なんだ。それで新しくなった劇場で最初にやる新作に出ないか、と言ってきたんだ。なんと振付だ

けでなく演出もやってほしいと言われた時はびっくりしたけど、う～ん、すごいチャンス！で、僕がレスターで仕事をするために、クーパー・ファミリー団結。サラとナオミはわざわざレスターに来てくれて、6週間一緒に暮らしてくれたんだ！赤ちゃんづれでの引っ越しはもちろん大変だけど、アパートもすてきだったしね。いや2番目のアパートはすてきだった。最初のはちょっと騒々しかったけど、うん、まあきれいだったよ。僕にとっては良かったなあ。4週間のリハーサル期間でまったくの新作を立ち上げるために、僕は長時間スタジオにこもっていたからね。振付と監督をしながら、一度に二か所にしようとするのは簡単じゃないんだ。僕は文字通り朝の9時から時には夜の10時まで劇場にいたから、夜帰るとサラとナオミがいてくれるおかげで気持ちを立て直せたし、娘が成長していく姿を見る機会を逃すこともなかったし、素晴らしかったよ。

公演は上手くいった。リハーサル中はとてもきつかったけれど、きついながらも存分に満喫できた。ものすごく大変だったのは、実際にセットを組み立てる時。全体を組み立てて動かしてみるのに2～3日しかなかったし、セットも大きく、衣装替えも多く、劇場もできたばかりで場面転換の自動システムも新しかったりと、技術的に非常に難しかったんだ。大変だったのは時間が短かすぎたからだと思うよ、ほんとに。僕らは最初のプレビューをキャンセルしなければならなかった。でもその週末にはどうにか立ち上がったし、長い目で見れば自分がやり遂げたことに非常に満足してる。作品には問題点もあって、再度やるなら手直しする必要があるけれど、あの限られた時間内で、数か月前に書かれたばかりの作品であることを思えば、僕らはほんとにいい仕事をしたと思うよ。フランス・オコーナーのセットと衣装は素晴らしかった。すごくいい仕事をしてくれたよ。クリス・エリスの照明、グラント・オールディングの音楽、トビー・デービスの脚本も素晴らしくて、僕らは本当によくやったと思う。思い返してみると、すぐに思い浮かぶのは「僕たち、一体全体どうやってやったんだ？」とか「今までで一番ハードだったよ、ほんと。」ってことだけど、最終的には達成感がそれを上回るって感じだね。

で、とにかく上手くいったし、キャストも素晴らしかった。特にシンデレラを演じたサバンナ・スティーブソンは若く才能あふれる女性で最高。キャストは全員良かったし、レスター・スクール・オブ・パフォーミングアーツの生徒も何人か使った。生徒たちはとても良くやってくれて、生徒自身にも学校にも自慢できる出来だったし、僕をも満足させてくれた。みんなほんとに頑張ってくれたんだ。作品には問題もあったけど、長い目で見ればいい出来だったよ。

その間に「回転木馬」がロンドンのウェストエンドに移った。僕はレスターにいたので見逃がしたけど、サヴォイ・シアターの初日は12月2日で、なんとか初日前のプレビューを見ることができたよ。サヴォイのステージに乗せると最高だね。ツアーではやらなかったけど、バレエをステージいっぱい広げたことで見栄えがもっと良くなったと思う。「回転木馬」は今も上演されていて、好評を博している。僕も何度も見に行ったけど、この作品をととても誇りに思っているし、見に行くのが嬉しいんだ。見飽きることはないんだよ。いつも楽しい。素晴らしいキャストによるところが大きいんだけどね。見に行くたびに、彼らが作品にもものすごいエネルギーをもたらしているのが分かるんだ。僕自身も演出のリンジー・ポズナーも鼻高々だよ。

そんなわけで、クリスマスは自宅で家族と一緒に過ごした。サラの両親と僕の母が25日に家に来てくれたんだ。クリスマスのすぐ後、父にも会った。おじいちゃん、おばあちゃんにとっても、孫娘とゆっくり時間を過ごせるのは嬉しいんだよね。僕も数日を自宅で過ごせたから、パパ役に徹してお手伝いも喜んでしたよ。

最近新しいミュージカルのワークショップに取り組んでる。まだみんなにあまり詳しく話せる段階ではないけれど、出演者が3人のミュージカルで、公演も3回だけ。僕は振付兼出演者としてワークショップに参加してるんだけど、ワクワクものだよ。詳細は後日お知らせしたいな。2人の役者と一緒に、3週間ワークショップを行った。2人とも以前共演したことがある人なんだ。「回転木馬」でジュリー・ジョーダンを演じたアレクサンドラ・シルバーは本当に素晴らしい役者。「回転木馬」でオリヴィエ賞の受賞をなぜ逃したのか、理由が分からないよ。そしてアリスデア・ハーヴェイとは数年前「サイド・バイ・サイド」で共演した。またこの2人と一緒に仕事ができるなんて素晴らしいよ。3週間のワークショップも最高に楽しかった。

今ラッセル・マリファントと一緒にやっていて、身体のキレを取り戻そうとしてる。コロナで僕らがやろうとしているのは、「クリティカル・マス(=臨界質量)」というラッセルの代表作のひとつなんだ。男性ふたりのための30分間のデュエットで、僕がラッセルと踊る。幸いにも彼はこの作品を何度も踊っているから、僕はどっぷり頼り切りでいいわけ。でもとても良い作品なんだ。ラッセルの振付を踊るなんて素晴らしい気分だよ。ただ踊るだけで、他の人間の心配をしなくてもいいって本当にいいね。動きそのものを楽しんで、素晴らしいダンサーと共に踊る感動を味わって、そう、本当にエンジョイしてるんだ。

ラッセルともかなり定期的にやっているし、夏にサドラーズ・ウェルズでやる公演のオーディションも行っている。ショーの名前は「シャル・ウィー・ダンス？」または「サーチ・フォー・ラブ」。後者の方が僕は好きだな。このためのオーディションをやっている、ここ2週間以内にキャストが決まればいいなと思ってる。

他には何かがあるかな？ そうだ、リンジー・ポズナーとホランド・パークでやるオペラについてのミーティングをしてる。僕が振付で、アイデアを出し合っているんだ。そういえば今年後半、僕が日本で公演するらしいという話が一部で出ていることについては、僕もそうしたいのは山々だけど、まだ協議中なんだ。何の契約もしていないしね。近いうちに何かお知らせできればいいなと思ってる。できればいいニュースをね。でもみんなも知ってのとおり、イギリスと日本の景気を考えると、ショーにお金をつぎ込むのは資金的に難しいんだ。だからみんな頑張って実現しようとしてる。実現できればいいなあ。日本で公演してからもう4年も経っているし、前にダイアリーの中でも言ったけど、僕にとって日本は第2の故郷なんだ。日本に行って公演するのが本当に大好きだから、今年後半、そしてできれば来年も、ぜひやりたいなあ。夏の公演を日本でもできれば、素晴らしいだろうな。

というわけで、これが僕の近況だよ。こんなに久しぶりで、信じられる？ 次はこんなに間隔を空けないから(ヘイ！ 締めくくりの決まり文句だよ、ジェイン、カレン！)。

とにかく、みんなにたくさんの愛を。みんな元気でね。みんなからの励ましの言葉、クリスマスのお祝いメッセージ、ナオミの誕生おめでとうメッセージ、そして贈ってくれたプレゼント、どうもありがとう。みんなみんな素晴らしいよ。本当にどうもありがとう。カレンとジェインに頼んでナオミちゃんの写真をウェブサイトに掲載してもらおうから、みんな見てね。

では、みんなに愛を込めて
バイバイ XXX